令和４年度 学校評価自己評価表　（中間）

【学校教育目標】　ふるさとに学び たくましく生きる子どもの育成　―元気 本気で 最後まで―

三次市立作木小学校

	中期 経営目標	短期 経営目標	目標実現の ための方策	評価指標	目標 値 (%)	達成 値 (%)	達成 度 (%)	評価	自己評価	関係者 評価	ご意見	改善策
ふるさとに学び たくましく生きる 子どもの育成 ― 元気 本気で 最後まで ―	確かな学力の定着	基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着	・読書活動の充実	・１年　15 冊／月 ２年　20 冊／月 ３・４年　350P／月 ５・６年　500P／月 （達成した児童の割合）	80	72	90	4	読書タイムを中心に読書活動を行った。学年によって読書量に差があり，最後まで読み切らせたり読書通帳に記入させたりすることを徹底できなかったという課題がある。各学年の取り組み方の工夫を交流することで改善を図る。	A	・丁寧に取組を行っている。 ・無理やり読まされている所がないか，そこが少し気になりました。	・最後まで読み切らせたり，読書通帳に記入させたりすることを徹底する。また，児童の読書意欲を高めるため，月に個人目標を設定するなど，学級の実態に応じて，取り組み方を工夫し，交流する。
			・帯学習におけるドリル（書き取り・読み取り・計算）学習の継続	・単元末テスト（国語・算数）80 点以上の児童の割合 ・三次市学力到達度検査において全国平均を上回る児童の割合	80	80	100	5	帯タイムにおける日々の取組で，読解・計算の力を着実につけている。より効果を高めるために，児童の学習の定着状況に応じた内容の精選や，学習意欲を高める方法の工夫を行っていく必要がある。	A	・丁寧に取組を行っている。 ・達成度もいいですが，「読解・計算の力を着実につけている」がうれしく思いました。	・全学年において児童の学習の定着状況に応じた内容の精選や誤答分析や自己評価等の工夫を行いながら取組を継続する。
		主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善	・「数学的な見方・考え方」を働かせる算数科授業づくり（１人２回以上の研究授業の実施）	・三次市学力到達度検査（算数の活用）において全国平均を上回る児童の割合	80				１学期は，小中合同研修会として第６学年の研究授業を行った。今後，講師を招聘しての研究授業を６回予定しているが，それ以外にも教職員で授業を見合う機会をつくり，授業力向上を図っていく。		・達成できることを願っています。	・事前事後の研修を持ち，授業研究を充実させる。研究授業以外にも教職員で授業を見合う機会をつくり，授業力向上を図る。 ・教職員同士の連携を密にして授業の工夫を共有する。
	豊かで健やかな心身の育成	自己肯定感の向上	・特別活動の充実 ・教育相談の実施 ・日常的な評価の工夫	・学校生活に関する児童アンケート，i-Check の「自己肯定感」「思いを伝える」「お互いを認め合う」項目の肯定的回答	80	88	110	5	「作木っ子のやる木」，「あいさつ名人表彰」など，児童の目標や頑張りを目に見える形で評価することができた。目標に対する評価の方法の工夫を行っていく必要がある。	A	・難しい目標だと思うが，やる気になる取組を行っている。 ・この３項目はとても大切なことです。全体達成値が 88.2%なのはとても素晴らしいけど，自己肯定できない７人の児童が気になります。	・委員会，クラブ，縦割り班活動の場で自己の役割を果たす機会を増やす。 ・児童の頑張りを目に見える形で評価することを継続する。
		基礎体力の向上	・体育科授業の改善 ・外遊びの奨励 ・業間体育の実施	・新体力テスト結果のＡＢ率	70	41	59	2	十分な取組ができず，目標を達成できなかった。２学期からは，体育科授業の改善，外遊びの奨励，業間体育の取組内容について全教職員で共通認識し，体力課題を克服しなければならない。	A	・評価は，２ではなく３かと思います。 ・授業改善，家庭での協力等の中で，時間をかけて改善していき，効果が上がるものと思いますので，年間の継続した取組をお願いします。 ・家庭や地域でも取り組まなければいけない。 ・家庭での外遊びの時間減少も関係しているものと思われる ・結果は結果で子どもたちが元気ならそれでいいと思います。	・サーキットトレーニングや業間体育について改善策を立て，全校での取組を確実に行う。 ・体力作りカードを配布し，家庭と体力向上について連携を取る。 ・冬期においても積極的に外遊びを行うよう児童会や学級の取組を増やす。
			・生活リズムの改善（小中連携・家庭啓発）	・就寝時刻の目安を守っている児童の割合 ・メディアに関する家庭のルールを設けている家庭の割合	70	53	76	3	スタディウィークの取組から就寝時刻を守ることの意識づけができた。メディアに関する家庭のルールを設けている家庭は半数であったが，就寝時刻が目安より遅くなる児童もいるため，引き続き保健指導や保健だより等で啓発していく。	A	・家庭を巻き込む目標は到達度がなかなか上がりくいが，引き続き取組を続けてほしい。 ・実質達成率は 53%ですが，この問題は学校だけで解決できるものではないので家庭への啓発でしょうか。	・引き続き，児童に対して生活リズムの定着を図るため，身体測定時などに，より具体的な根拠に基づく保健指導「睡眠の大切さ」を実施する。 ・家庭への啓発資料を作成，配布し，家庭の協力を仰ぐ。
	愛され信頼される地域とともにある学校	積極的な情報発信	・学校・学級・保健便り等の計画的な発行 ・ＨＰ更新	・学校評価アンケートにおける学校満足度に関する項目の肯定的評価の割合	85	89	105	5	通信等の発行を計画的に行い，ＨＰの更新を毎月２～３回は行った。情報発信以外の項目を含むアンケート全体でも肯定的評価 89%であり，概ね高評価である。少数ではあるが，否定的意見の背景も考えていく。	A	・家庭を巻き込む目標は到達度がなかなか上がりくいが，引き続き取組を続けてほしい。 ・学校からの情報発信をよくされているのがわかります。	・アンケートにおいて課題が明らかになった「言葉遣い」「学習理解」「家庭学習」を重点に，指導を充実させた成果を情報発信する。
		作木ふるさと学習の充実	・オリジナルカリキュラムの評価改善	・学習後の振り返りで「作木のよさを知り大切に思う」児童の割合	90				１学期には，作木ふるさと学習として，１年「常清滝」２年「まちたんけん」３・４年「ブッポウソウ観察」を実施した。２学期以降の学習も地域と連携しながら進めていく。		・100%を目標に取組をお願いします。 ・作木から出て大人になった時，「作木にはこんなにいい所があったんだ」と思えばいいですね。	・ふるさと学習で学んだことを学習発表会等の機会に表現，発信することを通して，実感を深めさせる。
		子供と向き合う時間の確保	・業務の精選と効率化 ・一斉退校日の設定 ・職員の意識改革	・「子供と向き合う時間を確保している」「自分は業務改善を進めることができた」と回答する職員の割合	80	73	91	4	毎週の一斉退校日は，定着してきた。また，在校時間の縮減も実施できた。業務改善アンケートの結果は子ども向き合う時間確保 82%，業務改善 64%であった。職員のさらなる意識向上に課題がある。	A	・激務が続いているとは思うが，少しでも改善されて在校時間の縮減を。 ・「子供と向き合う」とても大切なことです。先生方がオーバーワークにならないよう気をつけてください。	・繁忙期でも，在校時間の縮減ができるよう，企画委員会で見通しが持てるよう協議し，計画的な業務遂行を進める。 ・自分のできる業務改善は何かについて考え，具体的に実践していくような取組を仕組む。

５　１００%以上　目標を十分達成している。　４　８０%～１００%未満　目標を概ね達成している。
３　６０%～８０%未満　目標をやや下回っている。　２　４０%～６０%未満　目標を下回っている。
１　４０%未満

Ａ　自己評価は適正　Ｂ　自己評価は適正でない　Ｃ　判断できない